



【かわいだ まもる さん】 富丘 / 70歳  
●市民スキー場パトロール隊隊長

鹿児島県出身。昭和36年、19歳のときに自衛官となり千歳へ。平成8年まで北千歳駐屯地に勤務。赤十字の救急法指導員の資格を持ち、パトロール隊の活動のほか、救命講習会の指導者としても活躍する。また、ホルメンコーレンマーチャJAL国際マラソンでは万一の事態に備える救急救護員として大会を支えている。

ゲレンデを見つめるまなざしが、利用者の安全を守る

# ス

キーの初心者などに親しまれている泉沢の市民スキー場。今の時期は学校や保育園などの団体利用も増え、ゲレンデにはスキーや雪あそびを楽しむ子どもたちの笑顔が広がります。

川井田さんが隊長を務める市民スキー場パトロール隊は、市民スキー場が開設した35年前から、土曜日や日曜日、ナイター時を中心にゲレンデの監視などをを行い、利用者の安全を守り続けています。

「パトロール隊の証であるヤツケ(登山やスキーなどの際に着用する防寒用の上着)を着ていた先輩隊員の姿が格好良くて、私も活動に参加するようになった」と振り返って笑う川井田さん。

市民スキー場が開設する以前の、モラップにスキー場があった時代から活動を続ける大ベテランです。

万一の事態があった際、雪上でスキーを履いて救助活動を行うためには、高度なスキーの技術が求められます。現在所属する23人の隊員のうち、川井田さんを含む隊員のほとんどはスキー連盟1級の資格を持っています。

「救助活動は一人ではできません。一刻も早く救助するためには、技術を持った隊員のチームワークが大切です。救助にはアキヤというそのような道具を使うのですが、事故を想定した雪上訓練を定期的に行うなど、チームの力を高めるため、日々の研修にも力を入れています」と話します。

ゲレンデの監視のほか、危険な場所などを確認するスキー場の巡回も大切な任務です。「皆さんの滑りやすいところはだんだん雪が削れてしまいま

す。削れた雪が別のところにたまる斜面が波打ってしまい、初心者は転びやすくなります。巡回したときに削れたところがあれば、雪をならしています。地道な作業ですが、事故がなく、皆さんがけがに合わないことが一番ですから」と語ります。

「これからも、元気でいる限り活動を続けていきたいですね」と川井田さん。「冬の寒い日に、冷えた空気が頬がピリツとする感覚が気持ちいい」とヤツケ姿でゲレンデを見つめるまなざしは、今日も輝いています。

人のいる風景

SCENERY OF PEOPLE



MAMORU  
KAWAIDA

川井田

守

さん